福岡アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議 次第

第1回

日 時：令和6年7月11日（木）14時00分～

場 所：福岡アジア美術館 8階会議室

－ 次 第 －

1．事務局より挨拶

2．委員紹介・座長選任

3．議事

（1）アジア美術館の現状と課題

（2）魅力向上の方向性

4．意見交換

＜ 配付資料 ＞

資料1　第1回「アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」資料

参考資料　・アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議委員名簿

・アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議設置要綱

・令和6年2月議会 経済振興委員会 報告資料

「アジア美術館の魅力向上の検討状況について」

アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議委員名簿

氏名	所属・役職
西村　幸夫	國學院大學観光まちづくり学部長・教授
建畠　晢	埼玉県立近代美術館館長 京都芸術センター館長
菅谷　富夫	大阪中之島美術館館長
松岡　恭子	㈱大央代表取締役社長 ㈱ｽﾋﾟﾝｸﾞﾗｽ・ｱｰｷﾃｸﾂ代表取締役
河野　まゆ子	㈱JTB 総合研究所　執行役員　地域交流共創部長

（敬称略、順不同）

アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議設置要綱

（設置目的）

第１条　アジア美術館の魅力向上に関する検討を行うにあたり、専門的見地から幅広い意見を聴取することを目的として、アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議（以下「有識者会議」という。）を設置する。

（組織及び委員）

第２条　有識者会議は、座長及び委員（以下「委員等」という。）をもって組織する。

２　委員等は、学識経験者等のうちから市長が委嘱する。

３　委員等の任期は、委嘱された日から令和６年 12 月 31 日までとする。

（委員等への委嘱事項）

第３条　市長は、次に掲げる事項について、委員等から意見を聴取する。

(1) アジア美術館の魅力向上に関すること

(2) その他、市長が必要と認める事項

（会議）

第４条　市長は、委員等から意見聴取を行うため、有識者会議を開催することができる。

２　座長は、委員の中から事務局が推薦し、他の委員の承認により決定する。

３　座長は、有識者会議を主宰し、会議の議事進行を行う。

４　座長がやむを得ず有識者会議に出席できない場合は、座長があらかじめ指名した委員が座長代理として会議の進行にあたる。

（情報公開）

第５条　有識者会議は、原則公開とする。有識者会議が福岡市情報公開条例（平成 14 年福岡市条例第３号）第 38 条ただし書の規定に該当するときは、非公開とすることができる。

２　有識者会議の傍聴に係る手続きその他傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

（守秘義務）

第６条　有識者会議を非公開で行う場合は、委員等及びその他有識者会議に出席した者は、有識者会議において知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、また同様とする。

（事務局）

第７条　有識者会議の事務は、経済観光文化局アジア美術館（魅力向上検討担当）において行う。

（規定外の事項）

第８条　この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

この要綱は、令和６年６月６日から施行する。

１．アジア美術館の現状と課題

○アジア美術館の現状

(1)沿革

1992(平成4)年6月	市長、アジア近代美術館の建設意向表明
1999(平成11)年3月	博多リバレイン竣工式
1999(平成11)年3月	開館
1999(平成11)年3月～6月	開館記念展 「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999(第5回アジア美術展)」
2014(平成26)年9月	第5回福岡アジア美術トリエンナーレ開催(～11月)
2019(平成31)年1月	開館以来の観覧者が500万人を超える
2024(令和6)年3月	開館25周年を迎える

(2)概要

設置者　福岡市長
設立年月日　1999年3月6日
名称　福岡アジア美術館
所在　福岡市博多区下川端町3番1号(博多リバレイン)
職員数　29名(令和6年7月1日現在)　総館長、館長(総括)、運営課、学芸課 等
面　積　建物面積
151,595.51㎡のうち　区分所有専有面積 9,101.05㎡
土地面積(共有持分)
宅地15,932.95㎡のうち　持分1,000,000分の113,856㎡
構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造　地下4階地上13階のうち地下1階～地上9階の一部
取得額　保留床取得価額　12,552,002千円
主要施設面積
●コレクション展示室　1,111 ㎡（7F）
●貸展示室(巡回展等)　1,005 ㎡（7F）/ 貸展示室(市民向け)　370 ㎡（8F）
●収蔵庫　503 ㎡（8F）　/ 格納庫　171 ㎡（8F）
ホール(120席)　172 ㎡（8F）

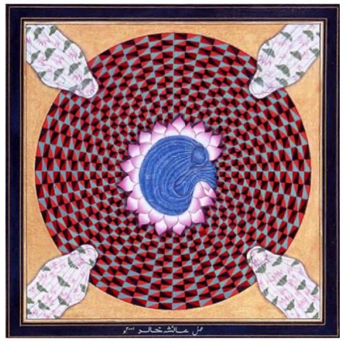
作者名：方力鈞(ﾌｧﾝ･ﾘｼﾞｭﾝ)

作品名：シリーズ 2 No.3

作者名：張暁剛(ｼﾞｬﾝ･ｼｬｵｶﾞﾝ)

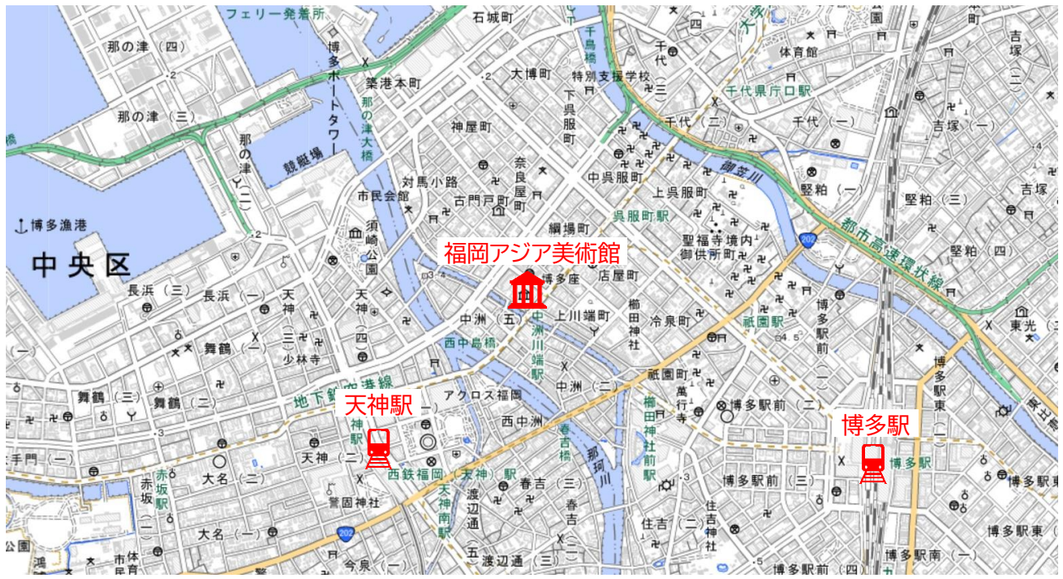
作品名：若い娘としての母と画家

作者名：アーイシャ・ハーリド



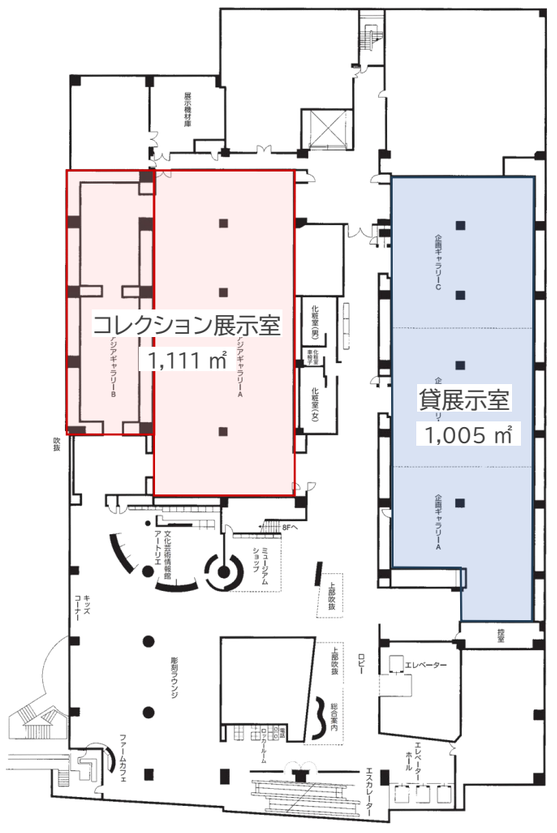
作品名：ビーナスの誕生

＜位置図＞

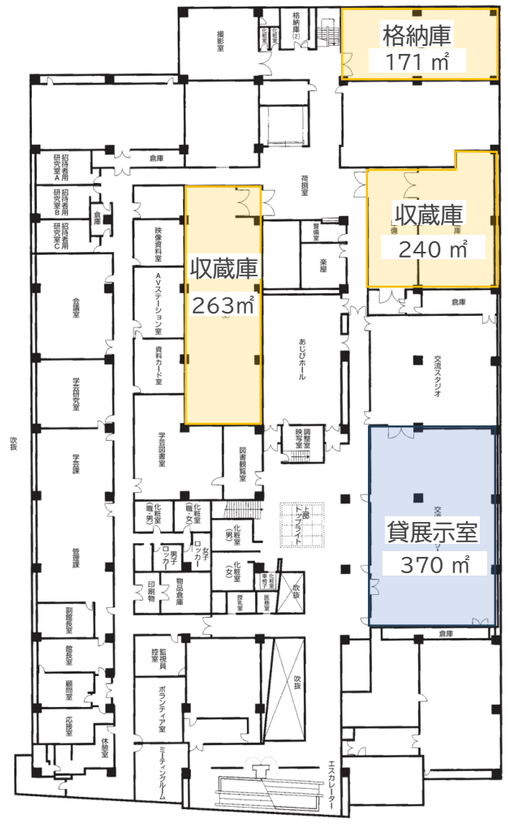


＜各階平面図＞

7F



8F



第１回「アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」

○現状分析

基本理念 ※開館時の基本理念を2004年に更新

アジアとの交流拠点、福岡

福岡市は、古代からアジア文化の受容窓口であったという地理的、歴史的な特質をふまえて、長年にわたり、アジアの交流拠点都市としての役割を歴史的に果たしてきました。福岡アジア美術館は、その福岡市のアジアとの交流への先進的な取り組みのひとつとして1999年に誕生しました。以降も次のような活動によって、日本をはじめ、アジア、世界からの注目を集めています。

世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館

福岡アジア美術館は、アジアの近現代の美術作品を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館です。それらの作品は、西洋美術の模倣でもなく、伝統の繰り返しでもない、変化しつづけるアジアの「いま」を生きる美術作家が切実なメッセージをこめて作り出した、既製の「美術」の枠をこえていくものです。広範で質の高いアジアの近現代美術作品の展示は、世界のどの美術館とも異なる独自性と魅力を持っています。

創造・発信する交流の場

福岡アジア美術館は、アジアの美術作家や研究者を招へいし、滞在制作やアジア美術の研究など様々な美術交流を通して、人々がアジアの美術・文化に親しむ場として機能してきました。福岡・日本とアジアが、また市民と美術にたずさわる人々が、たんに出会うだけではなく、互いに理解し、共に創造し発信していくことを目指す交流型の美術館です。

「まち」の中のライブな美術館

福岡アジア美術館は、福岡と博多の「まち」のエネルギーがうずまく都心にあります。この「まち」に生きる人々が、アジア美術を通してアジアの「いま」へ最短距離でアクセスできる都心型の美術館です。また、アジアの美術作家たちも、「まち」特有の場所や表現方法を活かして、「まち」を生きる人々へとアプローチしていきます

現状分析

○ 達成できている点
- 先進的な取り組みを継続してきた結果、開館より25年を経て、確固たる地位を築いている

● 課 題
- 福岡市のアジアの交流拠点都市としての役割は益々高まっており、また、博物館法の改正に伴い、美術館における文化観光拠点施設としての役割への期待が高まっている中、観光面での発信力が不足しており、インバウンド需要も十分に取り込めていない
- 開館から25年が経過し、展示壁面や照明設備など、設備の老朽化が見られる

○ 達成できている点
- 優れた芸術性と独自性を持つアジアの近現代美術作品を展示しており、国内外の美術関係者からの評価は高く、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっている
- 作品の収集方針（※）に従い、優れた芸術性と独自性をもつアジア近現代美術の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を系統的に収集し、その数は約5,000点にのぼる

● 課 題
- 西洋美術が一般的によく知られている中で、市民にアジア美術作品の魅力を十分に届け切れていない
- 近年、十分な作品購入ができておらず、最新の現代美術作品の収集ができていない
- コレクションの増加に伴い、開館当初約1,000点だった作品が約5倍に増え、展示・収蔵スペースが手狭になっている

○ 達成できている点
- 開館以来、継続してきたアーティスト・イン・レジデンスによって、美術作家が福岡での滞在を通して地域の人々と交流し、また作品制作やワークショップ、パフォーマンス、講演会など様々な美術交流を行なっている

● 課 題
- 2014年「第5回福岡アジアトリエンナーレ」開催以降、現代美術を紹介する大型国際展を行っていない

○ 達成できている点
- 市民や周辺地域も参加しながら、アジア作家による制作活動が行われてきた。また、博多旧市街地におけるまち歩きコースにも位置付けられている

● 課 題
- 都心に位置するものの、複合ビルの上層階に位置し、外からアジア美術館の活動が見えづらく、市民が気軽にアクセス出来ていない実情があり、集客が伸び悩んでいる

取組みの方向性と主な課題

基本理念に基づいて、**先駆的に取り組んできた美術館活動を継続**するとともに、**直面するソフト・ハード両面の課題解決**を図り、**これまでの活動や蓄積にさらに磨きをかけて魅力向上を図る**

＜主な課題＞

① 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない
② 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない
③ 設備の老朽化により機能が低下している
④ 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

※令和6年2月市議会にて報告

課題の掘り下げ

※次ページ以降で検討

課題解決の方向性の検討

※次ページ以降で検討

＜参考＞ KPI
福岡アジア美術館入館者数
R2n(現状):135,690 人 ⇒R6n(目標):412,000 人
※政策推進プラン（第9次福岡市基本計画 第3次実施計画）（令和3年6月策定・目標年次：令和6年度）より
※R5n(実績):427,800人

※ ＜参考＞作品の収集方針
福岡アジア美術館では、アジア美術の独自性を示す優れた作品を、近代と現代を中心に系統的に収集するとともに、西洋近代の価値観でつくられた従来の「美術」の枠にとらわれない、アジア美術の独自性や固有の美意識を示す作品を収集し、新たなアジア美術の価値の創造を目指し、下記のような収集方針を設けています。
(1) アジア美術の近代から現代へ至る流れを系統的に示す作品
(2) アジアの近現代美術を考える上で重要な、民俗芸術や民族芸術、大衆芸術
(3) その他、アジアの近現代美術を考える上で重要な、伝統的な美術・工芸

○アジア美術館の課題の掘り下げ

①　作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない

コレクション展の観覧者数は、年間約5万人でほぼ横ばいに推移しているが、美術館や博物館の約10万人と比較すると劣っており、コレクションでの十分な集客ができていない

【主な要因】
- 市民のアジア美術への認知･関心が低い
- アジア美術は、西洋近代の価値観でつくられた従来の「美術」の枠にとらわれない、独自性や固有の美意識を示す作品が多く、文化的な背景などの知識も踏まえなければ、価値や魅力を感じることが難しい

（コレクション展の観覧者数の推移）

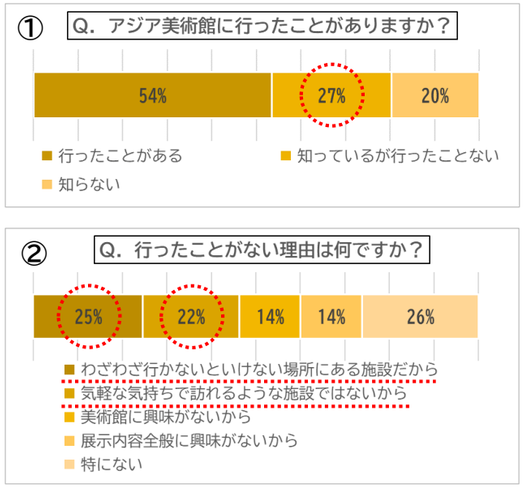
年　度	観覧者数	うち外国人			
		アジア	欧　米	小　計	
H26	39,412	1,091	1,097	2,188	5.6%
H27	49,477	2,379	1,653	4,032	8.1%
H28	65,061	2,778	2,114	4,892	7.5%
H29	66,383	4,515	2,561	7,076	10.7%
H30	56,467	4,921	2,681	7,602	13.5%
R１	29,284	3,464	2,356	5,820	19.9%
R２	14,848	148	232	380	2.6%
R３	32,129	177	288	465	1.4%
R４	56,480	1,055	896	1,951	3.5%
R５	62,068	5,013	3,771	8,784	14.2%

②　市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない

わざわざ行かないといけない場所にある、気軽な気持ちで訪れる施設ではないと認識されている

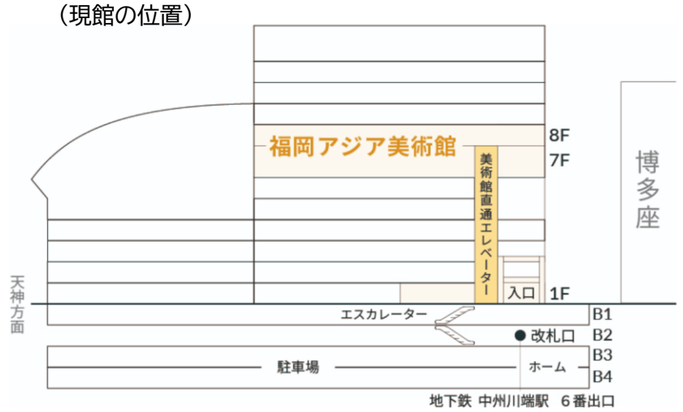
【主な要因】
- 作品鑑賞以外の来館動機につながるすごし方や価値の提供が不足している
- 便利ではあるが、何かのついでに気軽に立ち寄る場所とは言い難い
- 複合ビルの上層階に位置し、下層階（入口）からの誘導に課題がある

（市民街頭アンケート調査（N-1,000））
令和5年11月実施



（歩行者通行量【休日】（7:00～20:00））
令和3年度

（現館の位置）



（現館のエントランス等の状況）

建物外観

エレベーターホール

③　設備の老朽化により機能が低下している

来館者にとって館内の雰囲気や体験の質が低下し、全体的な魅力が低下している

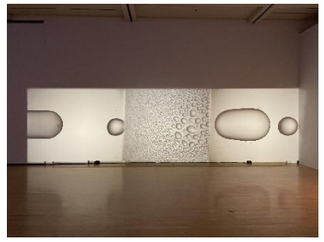
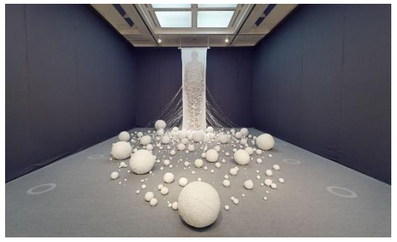
【主な要因】
- 展示壁･天井･照明など25年前の設備で構成されており老朽化も見られる

④　展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

展示スペース　コレクションを十分に活用した魅力的な展示を行うにはスペースが手狭になっている

【主な要因】
- インスタレーション･立体などの大型作品や映像作品の増加により大きな展示面積が必要となっている
- 展示方法が多様化しており、また、作品の魅力を引き出すための空間を広くとる必要が出てきている

（作品の大型化）

収蔵スペース　コレクションの増加に伴い、適切に保存管理するためのスペースが手狭になっている

【主な要因】
- コレクションの増加に伴い、開館当初約1,000点だった作品が約5倍に増加している
- 大型の彫刻作品や映像作品の増加が顕著である

作品点数の推移：　1999年　約1000点　→　2024年　約5000点
主な作品の増加状況：絵画689点→1,434点、彫刻76点→230点、映像3点→89点

（収蔵庫の状況）

２．魅力向上の方向性

直面するソフト・ハード両面の課題解決を図り、これまでの活動や蓄積にさらに磨きをかけて魅力向上を図る

○課題解決の方向性

(1)コレクション展の充実・展示機能の拡充

① 市民が行きたくなるコレクション展の企画により、アジア美術に触れてもらうことで、価値や魅力を伝える

② コレクションを十分に活かした展示ができ、気軽に立ち寄り鑑賞するための展示機能の拡充

＜必要となる機能・規模感＞

ソフト面
- デジタルを活用した作品解説などを行い、アジア美術の理解力を高める
- アジアに関心が無い人でも興味が持てる、テーマの設定や空間デザインの工夫などを行い、魅力的な展示をつくる
- 代表的な作品をアジア美術館の「顔」となる作品として周知を高め、市民に印象付ける
- 最新の現代美術作品を継続的に購入し、コレクション展で活用していく

ハード面
- コレクションを十分に活用した展覧会構成が可能な壁面長の確保
- インスタレーション・立体などの大型作品をダイナミックに展示することが可能な容積の確保
- メディアアートなど最新機器を活用した展示が可能な仕様の展示室を設置
- 気軽に立ち寄り鑑賞できる環境

（コレクション展の充実）

従来の展示状況

現在の展示状況

（代表的な作品の周知）

アジア美術館の「顔」となる作品を年間を通じて展示

エレベータ内の装飾

(2)収蔵機能の拡充

コレクションを適切に管理・活用するための収蔵機能の拡充

＜必要となる機能・規模感＞
- 作品数、種類に合わせた、適切な保存管理が可能で十分な余裕がある収蔵庫
- 作品研究室と一体化した収蔵機能の拡充

(3)その他　魅力向上に資する機能の拡充

魅力向上に必要な機能(集客・賑わい)の拡充

＜必要となる機能・規模感＞
- アジア美術に興味のない人にも、アジア美術に触れるきっかけを創出できる魅力的な空間
- ナイトコンテンツやユニークベニューとしての活用など、集客力を高め賑わいを創出できる新たな仕掛け
- 周囲の目を引く美術館のアイコンとなる大型作品の設置

○施設拡充のあり方の検討

(1)基本的な考え方

魅力向上を図るためには、機能拡充が必要となるが、限られた現館内スペースの再編成による拡充は、対応が困難である。

このため、現館との機能分担により、課題解決に効果的な候補地を選定し、それぞれの場所の特性を活かした施設拡充について検討する。

機能拡充の考え方

①展示機能の拡充｜コレクション展示のソフト・ハード面での改善をおこない、アジア美術への興味や理解をより高めていくには、気軽に立ち寄れ、集客が見込める場所での展開が望ましい

②収蔵機能の拡充｜作品の保存・管理には、空調システムや高いセキュリティを備えた設備が必要となるため、既にこれらの機能を備えた現館の機能を活用しながら、不足する面積と設備を拡充し、収蔵機能と調査研究機能を一体化することが望ましい

③集客・賑わい機能の拡充｜アジア美術との出会いの機会をつくるため、作品鑑賞以外の来館動機を創出する集客・賑わい機能は、展示機能の拡充先で展開することが望ましい

(2)主な機能分担のイメージ

【現アジア美術館(7・8階)】

■★収蔵機能

■ 貸館機能
- ・市民や企業の発表(展示)の場

■★調査研究機能
- ・アーカイブ(これまでに収集・蓄積してきた作家資料、所蔵品資料、写真資料、映像資料等)
- ・ライブラリー
- ・作品研究室

【拡充スペース】

★コレクション展示機能
- ・魅力的でダイナミックな展示

★集客・賑わい機能
- ・アジア美術との出会い

★特に拡充する機能　/　■ 既存の機能

報告事項１

経済振興委員会報告資料

アジア美術館の魅力向上の検討状況について

令和６年２月

経済観光文化局

アジア美術館の魅力向上の検討状況について

経済観光文化局

1．背　景

福岡市では、令和4年度より、福岡市美術館やアジア美術館のこれまでの取組みをさらに発展させ、彩にあふれたアートのまちを目指して、「Fukuoka Art Next」(FaN)に取り組んでいる。

その中核施設となるアジア美術館は、1999年にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館し、国内外の美術関係者からの評価は高く、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっている。しかしながら、その価値や魅力を広く市民に届け切れておらず、十分に活かしきれていない。

このため、令和5年度より魅力向上の検討を行っており、今回、魅力向上の検討状況と今後の取り組みについて報告するもの。

2．魅力向上の検討状況

（1）アジア美術を取り巻く環境

- アジアから世界に通じる作家が数多く登場しており、シンガポールや香港など、アジアを中心にアジア美術をコレクションする美術館が増えている

→アジア美術が世界的に注目されている状況にある

（2）アジア美術館の現状

① コレクションの状況

- 1970年代からの収集により、アジア美術を系統的に捉えることができ、その数は約5,000点にのぼる
- 長年にわたる収集は、作品の価値を向上させ、他館の追随を許さない

→国内外の美術関係者からの評価は高く、これを市の財産、観光資源として有効活用することが重要

作者名：方力鈞(ﾌｧﾝ･ﾘｼﾞｭﾝ)

作品名：シリーズ 2 No.3

② 集客の状況

- コレクション展の観覧者数は、年間約5万人で推移しているが、美術館や博物館の約10万人と比較すると劣っており、コレクションでの十分な集客ができていない
- しかしながら、市民アンケート(2頁)にもあるように、アジア美術に触れるきっかけがあれば、関心が高まる

→アジア美術に触れる機会を増やすことが重要

③ 施設の状況

- 開館から25年が経過し、展示壁面や照明設備など、設備の老朽化が見られる
- コレクションの増加に伴い、開館当初約1,000点だった作品が約5倍に増え、収蔵スペースが手狭になっている
- アジア美術の系統的な展示や大型作品を魅力的に展示するには、展示スペースが手狭になっている
- 市民アンケート(2頁)にもあるように、わざわざ行かないといけない場所にある、気軽な気持ちで訪れる施設ではないと認識されている

→機能更新と拡充が望まれる

（3）集客力のある美術館の状況

＜金沢21世紀美術館の事例＞

- 市の中心部で、観光名所に隣接した場所に位置している
- 屋外に写真映えする作品を展示するなど、美術館のシンボルとなっている

→集客する美術館は、好立地でシンボルとなる屋外作品を有する

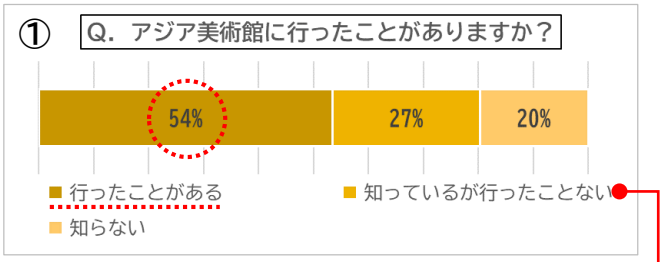
建物外観

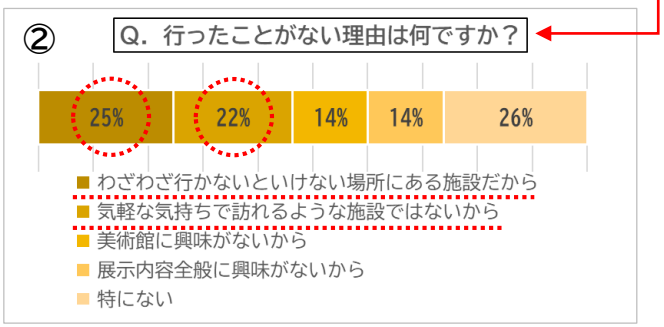
スイミング・プール
ﾚｱﾝﾄﾞﾛ･ｴﾙﾘｯﾋ

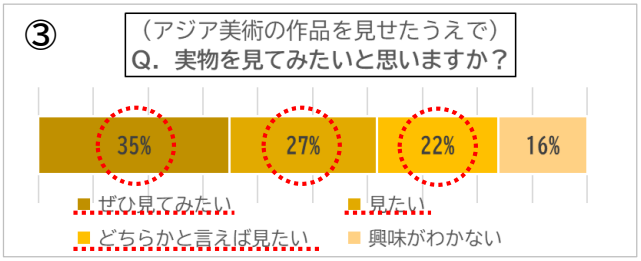
（4）市民アンケート調査

- アジア美術館の現状を把握するため、市民アンケートを実施した（令和5年11月）

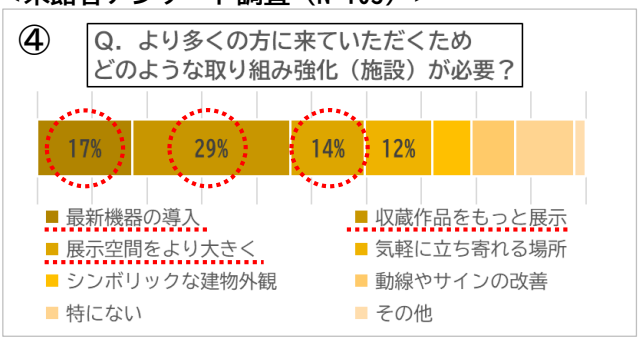
＜市民街頭アンケート調査（N-1,000）＞







＜来館者アンケート調査（N-103）＞



（5）課題の整理と解決の方向性

＜主な課題＞

① 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない

② 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない

③ 設備の老朽化により機能が低下している

④ 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

＜解決の方向性＞

⇒ **コレクション展の充実**（課題①、②）

- 市民が行きたくなるコレクション展の企画により、アジア美術に触れてもらうことで、価値や魅力を伝える

⇒ **展示・収蔵機能の拡充**（課題②、③、④）

- コレクションを十分に活かした展示ができ、気軽に立ち寄り鑑賞するための展示機能の拡充
- コレクションを適切に保存管理するための収蔵機能の拡充

- **展示機能については**、警固公園地下駐車場の後利用の照会に対して、当該地は、都心の一等地に位置し、集客が見込めることを踏まえ、**拡充先の有力候補として**活用したい旨回答した

3．今後の取り組み

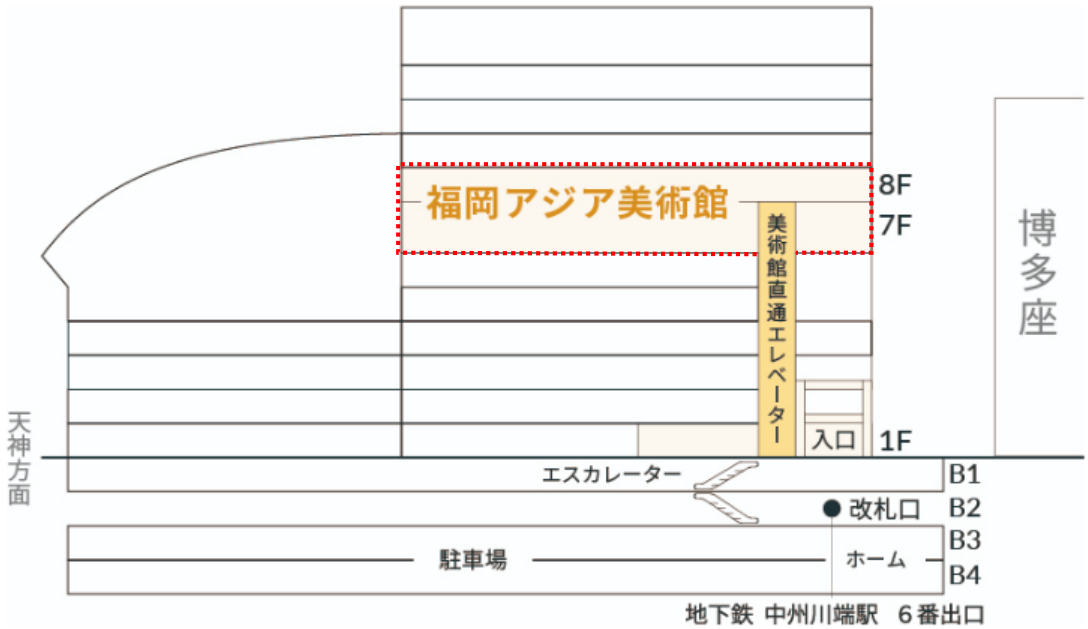
課題解決の方向性を踏まえて、展示の工夫や効果的なプロモーションなどによる**コレクション展の充実**によりアジア美術館の魅力向上を図るとともに、**警固公園地下駐車場を有力候補**とした、**展示機能の拡充に関する調査検討**を進めていく。

【参考】アジア美術館の施設概要

【設立年月日】　平成11年（1999）3月6日

【位　　置】　福岡市博多区下川端町3-1（リバレインセンタービル7・8階）

【規　　模】　9,101.05㎡



【主要施設面積】

コレクション展示室	1,111 m2	7F
貸展示室(巡回展等)	1,005 m2	7F
貸展示室(市民向け)	370 m2	8F
ホール(120席)	172 m2	8F
収蔵庫	503 m2	8F